

令和6年8月6日 発行

「高倉びわ生産塾」を開催 びわ産地の生き残りをかけて生産塾を再開

令和6年7月24日、びわ部会、JA、岡垣町及び普及指導センターで構成する高倉びわ活性化協議会は、JA 北九遠賀生産センターとびわほ場において、第5期「高倉びわ生産塾」を開催しました。

岡垣町のびわは120年以上前から生産され、県内の約7割の栽培面積を占める県内一の産地であるものの、高齢化や経営の不安定化により生産者数は減少し続けており、産地の存続が危ぶまれる状況となっています。

活性化協議会では、産地の生き残りをかけて、平成27年から生産塾を開催し、新たな生産者を確保してきましたが、近年は新型コロナウイルスの影響により活動を自粛していました。

今回、5年ぶりとなる生産塾は、講義と実習に加え、省力樹形での栽培が可能となる新植園地を、塾卒業後の就農園地として準備するなど、生産者がより定着しやすい環境を整えた上での再開となりました。

当日、6名の生産塾生が参加し、びわの生理生態について説明を受け、夏期の主要管理作業である芽かぎを実践しました。

今後も、普及指導センターは、「高倉びわ」の産地の維持・発展のために関係機関と連携して支援を行っていきます。



説明を受ける生産塾生



びわほ場で芽かぎ作業を実践